

令和7年度柏原市青少年講座 革細工講座 「世界に1つだけのオリジナルレザー ストラップを作ろう」

学科・専攻： 関西福祉科学大学
リハビリテーション学科
作業療法学専攻

担当教員： 掛川泰朗 藤井有里

連携先

柏原市教育委員会事務局教育部
社会教育課

プログラム内容

本講座では、柏原市教育委員会の主催で、小学生（1年生～6年生）を対象に、革細工でコースターとレザーストラップづくりを行います。革細工は作業療法において治療的に用いられる活動の一つであり、開始前には革細工がどのようにリハビリと結びつくのかについて、簡単な講義も行いました。またOT専攻2年生からボランティアに参加してもらい、小学生へ「教える」という体験もしてもらいました。

成果・考察

柏原市の小学生14名とその保護者が本講義に参加してくださいました。革細工は小学生にとっても楽しい体験だったようで夢中で取り組んでいました。また、リハビリの講義についても小学生・保護者ともに興味を持って聞いていただけたようで、「この講座に参加して、リハビリのこともたくさん知れて、コースターとストラップ作り、楽しかったです。」「革細工とリハビリが通じていることを初めて知りました。作業も楽しく、充実した時間でした。」と肯定的な意見を多くいただき、満足度の高い講義となりました。その要因の一つとして、学生がボランティアで積極的に関わってくれたことが考えられます。教員だけでは思いつかない丁寧な視点で準備に携わったり、やさしく小学生に声掛けをしてくれたりしたことで、小学生も安心して取り組めたのだと考えます。学生にとっても、小学生と関わる機会は少なく、何かを準備したり教えたりする機会も少ないため貴重な経験となったのではないのでしょうか。作業療法の学生は今後、学外の実習で臨機応変に行動することが求められますが、今回の革細工講座は有意義な経験になったのではないかと考えます。



関西福祉科学大学

リハビリテーション学科

作業療法学専攻 掛川 泰朗 准教授

去年に引き続き参加してくれた小学生も多く、慣れた手つきで刻印を打っていました。そして今年度は、昨年度になかった色付けを行いました。とても色鮮やかで自由な発想に毎度楽しませてもらっています。大学生も普段の授業では体験できない貴重な学びとなったのではないのでしょうか。

関西福祉科学大学

リハビリテーション学科

作業療法学専攻 2年生



太田さん、小蔵さん、鶴田さん、濱中さん、山本さん、渡邊さん

発達分野への関心から参加した学生たちは、革細工等の活動を通じ、子供たちの豊かな発想力や集中力に刺激を受けました。当初は接し方に迷う場面もありましたが、作業を共にする中で信頼関係を築き、交流の喜びと自身の成長を実感した、貴重な学びの機会となりました。